

もう一度ここに来たいな。宮島はそう思わせてくれる場所だった。

今年、G7広島サミットが行われたあと、六月初旬に私たちは修学旅行でその広島を訪れた。G7が行われたあとだったためか、それともコロナが五類移行になったためか、観光客は私たち修学旅行生以外にもたくさんいて、コロナ禍の影響はもうないように思われた。当日は原爆ドームの他、日本三景で世界遺産の宮島も訪問した。厳島神社大鳥居の改修工事が七十年ぶりに行われ、綺麗になった大鳥居を眺めることができた。そのときは「世界遺産の維持も大変だな。観光客も増えて、費用もかかるだろうし。」とぼんやり思っていたが、調べてみると、宮島訪問税という新たな税が徴収されることになると思った。

宮島訪問税は、船舶により宮島町の区域への訪問をする訪問者（住民や通勤・通学者、修学旅行生などを除く。）が訪問するごとに一人一回百円を支払うというものだ。宮島へ多くの観光客等の来訪によって発生し、又は増幅する行政需要に対応するため、原因者である訪問者にその費用の一部について負担を求めるという「原因者課税」の考え方に基づいた法定外普通税というらしい。行政サービスの量や種類を増大させている特定の人々がいるのだから、原因者の人々に、その経費増の一部を税として負担してもらおうというのは、非常に分かりやすいと思った。特に宮島は過疎化が進み、観光客が島民の三千倍近くとなっていることから、その原因が観光客であることは想像しやすい。今回宮島を訪れ、島の文化や自然に触れて、この美しい原風景を未来へ残さなければいけないと強く思った。そのためには、マナーを守り、ゴミは持ち帰るなど責任ある行動を取るとともに、このような税の負担もしなければならないと思う。

長く続いたコロナ禍が節目を迎え、かつてのにぎわいが戻ってきている。観光地に人が集まり過ぎて渋滞が起きたり、街にゴミが散乱するなどマナー違反が相次いだりと、観光が地域の生活に負の影響を及ぼすオーバーツーリズムの現象をテレビなどでもよく見るようになった。私が訪れた宮島だけでなく、京都や富士山などの人気観光地ではどこもこのような問題を抱えている。過疎化の問題も深刻だ。これからは、同じような税が他の観光地でも増えていくだろう。美しい観光地を未来への財産として引き継ぐために、納税は私たちができる方法の一つだと思う。もう一度宮島を訪れたら、持続可能な観光地域へ参画するために、宮島の未来を思いながら宮島訪問税を払おうと思う。